

器袋  
容装  
流内  
物用

# 製造ライン自動化推進

レスコン・ジャパン 大分の専用工場で

容器用内装袋の製造やドラム缶の販売を手掛けるレスコン・ジャパン（横浜市鶴見区、北窓秀夫社長）はこのほど、大分県国東市に内装袋専用工場を立ち上げたが現在、製造ラインの自動化を進めている。これまでにドラム缶用の成形天板シート、ペール缶用内装

袋の自動化を実施した。今後1〜2年内に2000ㄲドラム缶用内装袋の自動化も予定している。これにより将来的に内装袋総数で年間数十万枚単位での製造が見込めるとしている。

付与したポリエチレン製のフィルムを開発、これをドラム缶、1トコンテナ、パレットなど各種物流容器用としてラインアップし、販売している。キシレン、トルエン、イソプロピルアルコール（IPA）など芳香族系有機溶剤や危険物に対応でき、さらにシール強度・

耐薬品性・耐クラック性・加工性に優れ、内装袋を使用することで洗浄費の削減、溶剤の節約につながるなどが評価され、実績を積んでいる。

また同社は先にドラム

缶再生の櫻津容器（大阪府摂津市、福田勝社長）と業務提携を結び、内装袋とドラム缶のセット販売あるいは回収事業を開始している。これまで内装袋と容器業者は別個に営業活動を行ってきたが、今後は内袋一体型容器の供給・回収を行うこ

とで「ユーザーにコストダウンの提案と安定した需給関係が築ける」（北窓社長）として拡販を図るが、全国規模で容器再生業者との協力体制も構築する意向。

一方、製造体制としては2012年9月に大分県国東市の内装袋専用工場を開設、稼働入りしている。敷地面積約1900平方ㄲ、建物面積約860平方ㄲの規模。設備の自動化により生産能力の増強をめざしており、すでにドラム缶用成形天板シートとペール缶用内装袋の自動化装置を導入した。さらに来年から再来年にかけて200ㄲドラム缶用内装袋の自動化も予定している。これら自動化で年間生産量は従来の約2倍、数十万袋になる見通し。